

# MITSUBISHI

三菱Web地理情報システム構築パッケージ



WebTcl 起動サンプルインストール手順

PC WAS6.0 編

マニュアル

はじめに

---

はじめに

本書は、PreSerV WebTcl の動作確認プログラムを AP サーバ上に配置する手順を記述します。

## 目次

<b>1</b>	<b>概要</b>	<b>1</b>
1.1	準備するもの	1
1.2	動作確認済みAPサーバ	1
<b>2</b>	<b>WebSphere Application Server V6.0</b>	<b>2</b>
2.1	WebSphere Application Server V6.0 の設定	2
2.2	管理コンソールのオープン	2
2.3	新規アプリケーションのインストール	3
2.4	PreServ WebTcl Java APIの配置	4
2.5	起動HTMLとマクロの配置	4
2.6	アプリケーションの起動	5
2.7	起動HTMLのアクセス	5
2.8	動作確認サンプルの実行	6

# 1 概要

## 1.1 準備するもの

WebTcl の動作確認用サンプルに必要な以下の環境を準備してください。

- ① AP サーバ環境 (含む Web サーバ)  
事前に AP サーバをインストールし、環境設定を行ってください。  
また、管理コンソールのユーザ ID は事前に確認してください。
- ② クライアント PC  
AP サーバとネットワークで接続可能なクライアント PC を準備してください。
- ③ WebTcl の動作確認用サンプル  
「PreSerV WebTcl Basic Media」の CD から「起動確認サンプル」をクリックし、PC 上にファイルを解凍してください。



図 1-1 「PreSerV WebTcl Basic Media」CD 自動再生画面

## 1.2 動作確認済み AP サーバ

本文書で動作確認を行ったAPサーバを表 1-1 に示します。この動作確認は製品の全動作仕様の確認ではなく、インストール時の動作確認サンプルの検証を行ったリストです。

表 1-1 動作確認済み AP サーバー一覧

No.	AP サーバ名	販売元	バージョン
1	WebSphere Application Server Network Deployment	日本 IBM	V6.0

## 2 WebSphere Application Server V6.0

本章の記載は Windows 系 OS 向けの IBM 社 WebSphere Application Server V6.0 での設定例です。

### 2.1 WebSphere Application Server V6.0 の設定

以下は AP サーバ: AppSrv01 で動作する環境が構築されていることを前提に記述しています。

### 2.2 管理コンソールのオープン



対象とする AP サーバの管理コンソールを開き、ログインしてください。



Windows の場合、以下の階層でスタートメニューを開くことで管理コンソールがオープンできます。

「スタートメニュー」→「プログラム」→「IBM WebSphere」  
→「Application Server Network Deployment v6」→「Profiles」  
→「AppSrv01」→「管理コンソール」

リモートで実行する場合、以下の URL で管理コンソールをオープンしてください。

注) ホスト名、ポート番号はインストール時の設定により異なります。

例) <http://www.section21.intra.melco.co.jp:9060/ibm/console/>

管理コンソールでは、ユーザIDを入力してログインしてください。ログイン後管理コンソールのTop画面が表示されます（図 2-1 参照）。

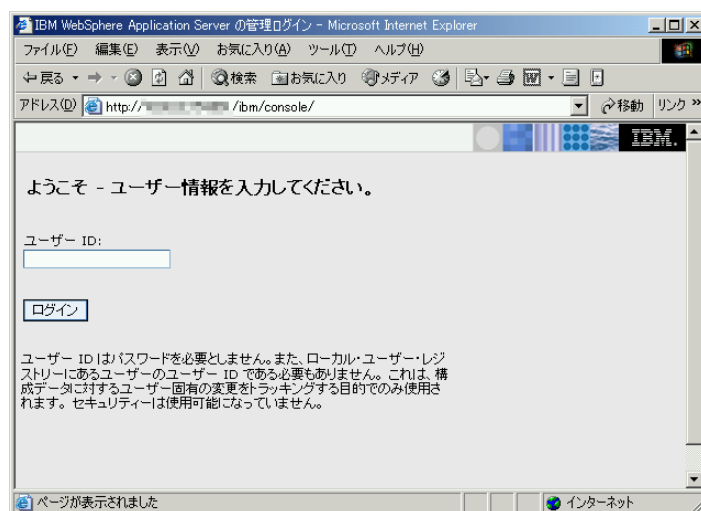


図 2-1 WebSphere 管理コンソール画面例

## 2.3 新規アプリケーションのインストール



PsvWTclSample.war を新規アプリケーションとしてインストールし、コンテキスト名を”PsvWTclSample”としてください。



管理コンソールの左側のメニューから「アプリケーション」→「新規アプリケーションのインストール」を選択してください。

選択後、「アプリケーション・インストールの準備画面」が表示されます(図 2-2 参照)。

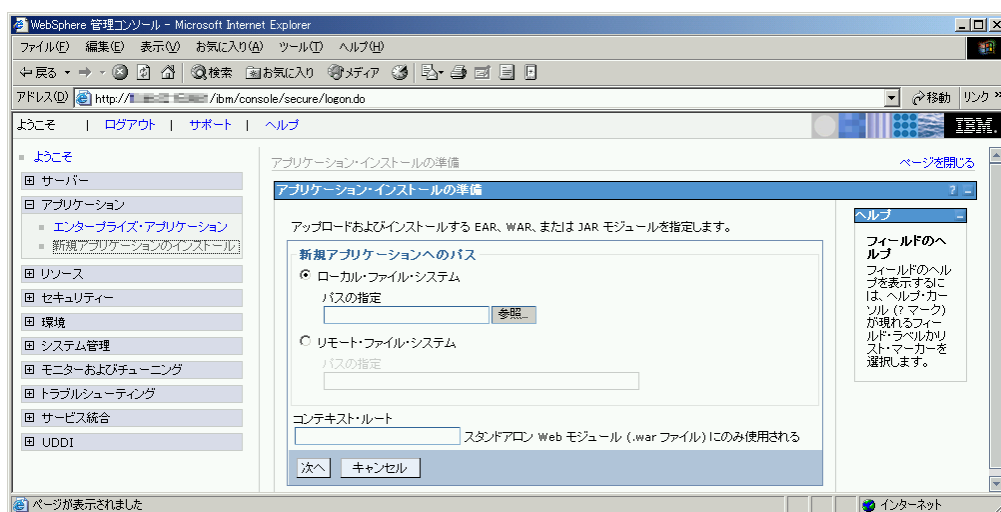


図 2-2 新規アプリケーション・インストールの準備画面

「新規アプリケーションへのパス」で、ローカルに解凍した”PsvWTclSample.war”のフルパス名を指定してください。

今回のサンプルは War 形式であるため、「コンテキスト・ルート」でコンテキスト名も指定してください。

※ 今回はコンテキスト名を”PsvWTclSample”として入力した例を説明します。

その後の画面は「インストール・オプションの選択」画面まではデフォルトです。

「インストール・オプションの選択」画面では、「リソース用 MBeans の作成」のチェックを外してください。

その他の画面は全てデフォルトで「OK」してください。全ての設定画面を終了すると、“インストール中”と表示され、アプリケーションのインストールのバッチが実行されます。“アプリケーション PsvWTclSample\_war は正常にインストールされました。”と表示されていれば、WebTcl のサンプルのインストールは成功です。

## 2.4 PreSerV WebTcl Java API の配置

確認プログラムの共有のライブラリは、本体の War に包含し簡易化しています。複数の WebTcl アプリケーション間で、同一の PreSerV WebTcl Java API の Jar を参照する際は、共用ライブラリとして設定し、アプリケーションから参照してください。

- (1) 共用のライブラリ・ディレクトリへの配置



AP サーバからアクセス可能なディレクトリ上に、PreSerV WebTcl Java API の Jar を配置してください。

- (2) 共用ライブラリの登録



(1) で配置した Jar ファイルをサーバの共用ライブラリとして登録し、これを 2.3 節で登録したアプリケーションのライブラリとして参照設定を行います。

## 2.5 起動 HTML とマクロの配置



起動 HTML および WebTcl 基本モジュールインストール媒体などのファイルを Web サーバ上に配置。



起動 HTML やマクロは Web サーバ上に配置するドキュメントの分類と考え、プログラムとは別に配置可能です。

今回は配置を簡略化するため、"InstalledApp" の下に展開されている、PsvWTclSample\_war アプリケーションの直下に配置し、同一のコンテキスト名でアクセスします。

例)

C:\Program Files\IBM\WebSphere\AppServer\ (インストール設定により異なる)

→profiles\AppSrv01\installedApps\section21Node01Cell\ (AP サーバ設定により異なる)

→PsvWTclSample\_war.ear\PsvWTclSample.war (アプリケーション設定により異なる)

## 2.6 アプリケーションの起動



インストールした PsvWTclSample\_war を起動して使用可能にしてください。



左のメニューから「アプリケーション」→「エンタープライズ・アプリケーション」を選択し、インストール済みアプリケーションの一覧を表示してください。

PsvWTclSample\_war のチェックを ON にして、「始動」を選択しアプリケーションの起動を行ってください。

起動後、上部のメッセージ欄に「アプリケーション PsvWTclSample\_war がサーバー server1 およびノード section21Node01 で正常に始動されました。」と表示されます（図 2-3 参照）。

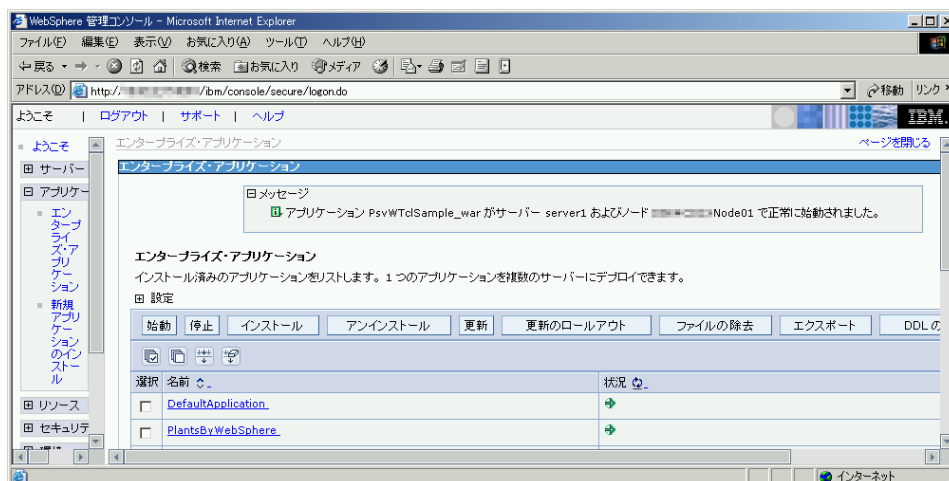


図 2-3 PsvWTclSample\_war 始動時の画面

“正常に始動”と表示されない場合は、PsvWTclSample\_war の設定を確認してください。

## 2.7 起動 HTML のアクセス



起動 HTML の URL へアクセスしてください。



2.5 節でコピーした起動 HTML をクライアント PC から表示して、動作確認サンプルを実行してください。

例)

<http://www.section21.intra.melco.cow.co.jp:9080/PsvWTclSample/KickWTcl.html>



## 2.8 動作確認サンプルの実行



動作確認サンプルを実行し、WebTcl クライアントと AP サーバ上の Java アプリケーションの通信が正常に行われることを確認します。



起動 HTML へアクセスすると、自動的に WebTcl のインストールが開始されます。インストール媒体の信頼性に関して、“MITSUBISHI ELECTRIC CORPORATION”の電子署名の確認が表示されますので、「OK」をクリックすると、WebTclの基本モジュールのインストールが開始されます（図 2-4 起動HTMLアクセス時のインストール確認参照）。

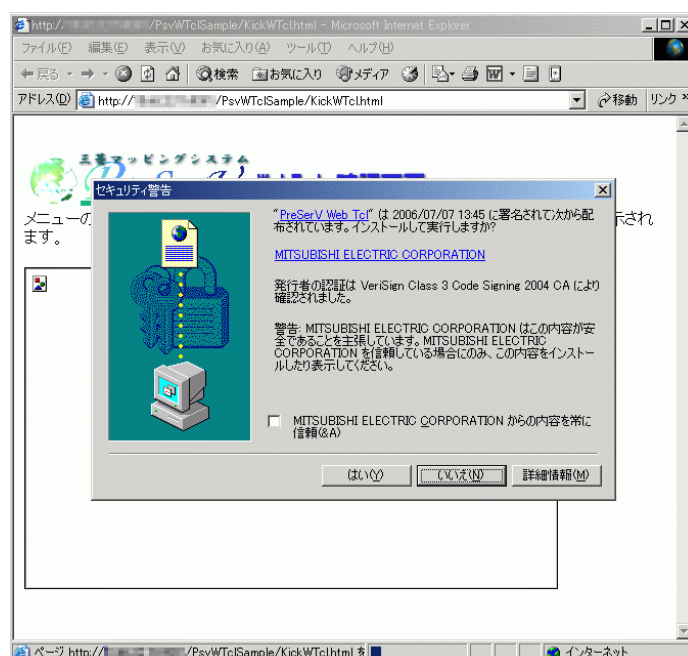


図 2-4 起動 HTML アクセス時のインストール確認

インストール終了後、初期起動マクロが実行されメニュー画面が表示されます（図 2-5 メニュー画面参照）。



図 2-5 メニュー画面

メニュー画面の操作パネル①～③のボタンを順番にクリックし、AP サーバとクライアント PC 間のリクエスト→レスポンスの動作を確認してください。

②のリクエスト→レスポンス確認では、簡単な図形を作成するトップウィンドウをIE 統合モードで表示します（図 2-6 IEに統合されたWebTcl トップウィンドウ参照）。

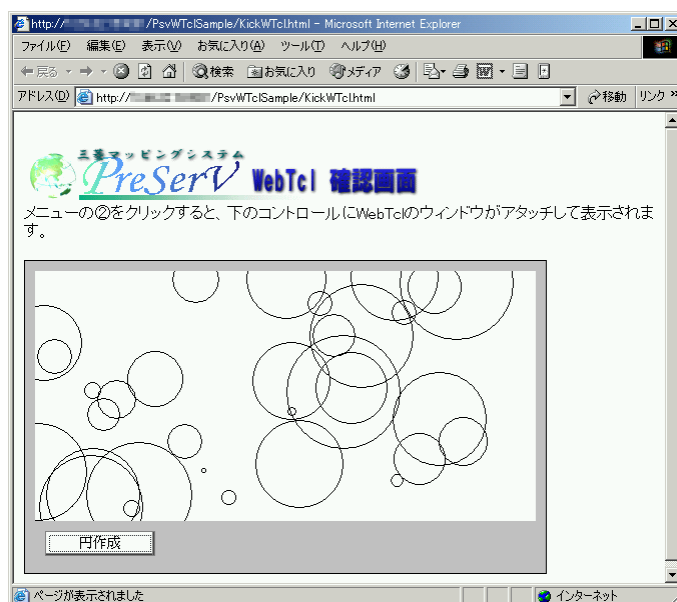


図 2-6 IEに統合されたWebTcl トップウィンドウ

エラーのダイアログが表示されなければ、動作確認はOKです（図 2-7 参照）。



図 2-7 エラー表示ダイアログ

「終了」をクリックすると、起動 HTML ごと動作確認サンプルの終了します。